

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇9月は全教会布教推進月間◇

一手一つに 世界たすけの 歩みを進めよう

《全教一斉にをいがけデー》

9月28日（土）～30日（月）

教祖の道具衆としての自覚を高め、ひながたを目標に
教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めよう！
詳細は各教会へお尋ね下さい。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会八月月次祭

大教会8月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「こどもおちばがえりに於き
ましては、親神様、教祖のお
膝元で参加者一同、事故・怪
我なく元気に目一杯親心を頂
戴し、成人させて頂きました

神殿講話

三幣敦志役員



神殿講話 全文

令和5年3月に初めて神殿
講話を勤めさせて頂き、思い
もかけず涙があふれてしま
いました。その後の反省会で、
私共の教会の世話人先生に、
文章の構成が良くない、涙は
後半に持つて行くべきだ、ま
た、活舌が悪すぎる、もっと

こと心より御礼申し上げます。
私共を始め教会長・用木一同
は、それぞれが諭達の実働に
伏せ込む中、大きな人の御守
護を頂戴しておりますことに
深く御礼申し上げ、心定めを
常に胸におき、完遂へ向け一
歩一歩力強く歩んで行く決心
でございます。」と奏上した。
その後座りづとめ・十二下
りのてをどりがつとめられ、
参拝者は共に勇んでみかぐら
うたを唱和した。

聞きやすく話すように、との
ご注意を頂き、今回は、その
反省を生かすべく、取り組ん
でまいりたいと思ひますが、
何分癖性分の強い私でありま
すので、同じ失敗をしてしま
う事、お許しくださいませ。
ご指名頂きましたので神殿講
話を努めさせて頂きたく、ど
うぞお聴き取り下さいますよ
う、お願い申し上げます。
本日は、「こどもおちばが
えり」を通じ、こども達から
学んだ「御存命の教祖の親
心」、そして育成と丹精につ
いての真柱様のお言葉、また、

少し早いですが、三年千日を
振り返り「ひながたを味わう」
瞬間の出来事、そして、「心
定め達成に向けて」の以上3
点について、皆さまと共に教
祖の御教えを深く思案いたし
たいと存じます。

ひながたの始まりは、「貧
に落ちきれ」との親神様の思
召のまにまに、次々と家財を
施された教祖は、「物を施し
て執着を去れば、心に明るさ
が生まれ、心に明るさが生ま
れると、自（おのづ）から陽気
ぐらしへの道が開ける」とお
教え下さっております。

8月3日まで開催されまし
た「立教188年こどもおちばが
えり」。網走団の引率の責任
を担い、お預かりしたこども
たちをおちばへ連れ帰り、元
気な姿で親元へ送り届けるこ
とができました事、本当に有
り難く思わせて頂いておりま
す。お力添え頂きました大教
会長様ご夫妻始め、育成会員
のスタッフの皆様は心より御
礼申し上げます、期間中に起きた
様々な出来事を思い起こした
いと存じます。

ご承知の通り、7月30日に

守護に浴します。ですから、教会長が、ぢばの理を流すパイプ役でなければならぬ。だからこそ教会長は、おぢばに真実の心を尽くし、そして運び、伏せ込みの精神を強く持つていなければならない。」（みちのとも「これからの道の歩み」立教184年5月号）と、教会長の役割を明示されました。

父や妻にも相談し、おぢば帰りを毎月欠かさずつとめさせて頂こうと定め、現在も続けています。妻はいつも「教会を代表しておぢばに帰らせて頂くのですから、しっかりと伏せ込んできてください。」とアドバイスをしてくれます。留守してくれている父や妻のおかげで、おぢばの理を受け、多くのご守護を頂戴しているのは言うまでもありません。

更に別のお話で、「教祖のご年祭ですから、常に、教祖の親心と思召しを求める姿勢が第一です。それは、ようばくとして、いまの自分の身の回りに表れていること、成ってくることをよく思案して、自分に頂戴する御用、役割を求めて、自覚して、つとめさ

せていただくのであります。自分に頂戴する御用や役割は、「おまえならきつと、この役割を果たしてくれるだろう」との親のご期待ですから、厳しそうなことや難しそうなことでも、ご期待にお応えするという勇み心で臨めば、きつと喜びの道が開けてくるに違いありません。」（立教186年春季大祭神殿講話）と仰せられ、この三年千日頂く御用、役割は、断らず素直に「はい」と受けさせて頂こうと定め、大教会や教区の御用、役割を様々にお受けさせて頂いております。

こうした心定めを教祖がご受取り下されてか、今年の4月、当教会に初めてのようばく誕生のご守護を頂きました。大教会直轄で運ばれ、おさづけを拝戴したその方は、大教会長様のご厚情を頂き、勇走の所屬となりました。拝戴した翌日、その方よりおぢば神殿にて初めてののおさづけを取次いでいただき、そのうれしさと感動は言葉に言い表せない程でした。

千歳に戻られてからもその方は、近所の方や父にもおさ

づけを積極的に取り次がれ、おたすけ人として活躍されています。これから共に、御恩報じの道を歩み、教祖年祭に向け更にも増してたすけ一条に邁進したいと思っています。教会をお預かりしてより10年目、こんなに慶こばしいことはございません。思えば、教祖は、13才で中山家に嫁がれ10年間、お子様に恵まれませんでした。その史実を拝察する時、子供を授からない私たちに、理の子を授けて下された。ひながたとは言えないかもしれないが、教祖の親心を味合わせて頂くことができた。こんな有り難いことはない、とむせび泣き致しました。

おさしづに、

「難しい事は言わん。難しい事をせいとも、紋型無き事をせいと言わん。皆一つゝのひながたの道がある。ひながたの道を通れんというような事ではどうもならん。あちらへ廻り、日々の處、三十日と言えば、五十日向うの守護をして居る事を知らん。」

（明治22・11・7）

教祖は、いつも先廻のご守護を準備して、待つて居て下

さいます。

皆さま、「航海」という歌をご存知でしょうか。

「世の中は海 人々は小舟」と始まる歌詞は、ようばくを船に例えて、にをいがけへと廻る様子を描かれていいます。

私は、この歌の2番の歌詞に大変感銘を受けております。嵐に遭えば心も乱れてあの日の喜びさえ忘れそうになる

風無き日々は不安と孤独の潮に流されるまま虚しくただよう

けれどすべては有り難き「ふし」

心の帆柱を倒すことなくひながたの道たどりゆくなら

教祖は必ず風をくださる

帰るところは世界に一つ「ぢば」という港に心つないで

様々な節目に遭われているお互いですが、教祖ほどのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るく通られました。

私たちの帰るところはおぢばです！ 皆さん、おぢばに帰らせて頂き、教祖に御礼申

し上げましょう！

終わりにあたり、昨年の秋季大祭で真柱様は、「三年千日の期間は、動かしていただくことが大切であります。一生懸命取り組んで、年祭の日、おぢばへ帰ってきてもなくても、その日をうれしいう心で迎えることができるように、（中略）勇み心を奮い起こしてお通りくださるよう」とお言葉を述べられました。

来月は、全教会布教推進月間、そして、恒例の全教一斉にをいがけデーがございます。各教会に繋がるもつとくさんのようばく、信者皆さまが、一手一つにご恩報じの船出をきり、たすけ一条への航路に邁進いたしましょう！

更には、大教会の心定め達成に向け、今月末よりたくさんの方々がおぢばへと修養に入ります。

年祭当日まで、残すところ167日。まだ自分にできる事が必ずあります。大教会一丸となって、本年の心定め達成に向け、最後の力を、そして勇み心を奮い起こそうではありませんか！

カムチャッカ半島巨大地震が発生し、日本列島に津波警報が発令されるという大きなふしをお見せ頂きました。すべてのおぢば行事を中断せざるを得ないと感じ、情報収集に つとめました。

最悪の事態も想定し、避難生活ということにもなりかねない状況の中を、大きなぢばの理に護られ事なきを得たのは、教祖の親心を感じずにはおられませんでした。

そして、半島での甚大な被害の報道もなく、有難く思わせて頂きました。しかし、復路便として予約していた太平洋フェリーの欠航が決まり、大教会長様とも相談いたし、こどもたちに不安を与えないよう発表せずに、主だったスタッフのみで相談を重ね、様々な復路のパターンを協議しつつ、行事を進めていきました。

翌日、1日延期とし、8月1日に日本海フェリーの予約も取れ、保護者やこどもたちに伝えることができました。不安そうに聞くこどもたちももう1泊できると喜び、その笑顔に本当に救われました。

そして保護者の方々からの問い合わせが1件もなく、発表後も、私たちスタッフを氣遣つて下さり、本当は不安いっぱいであつただろう中をご配慮いただき、有難く思わせて頂きました。

そうした中、夕方になり、こどもから「団長先生、今日はおつとめしないの？」と聞かれ、ハツとなりました。先の予定ばかり先案じして、最も大事なおつとめを予定せず、こどもから教えて頂きました。「それじゃ、無事に家に帰れるように神様をお願いして、みんなでおつとめをつとめよう！」と伝え、みんな真剣につとめてくれました。

「さんさいころろ」は素直な心と聞かせて頂きます。おぢばでのたくさんの行事を通して、おつとめの大切さを学んでくれたのだと思い、有難かったです。

また、別のこどもが、詰所の備品を2回壊すことがあり、事務所へ他のスタッフに連れ添われ謝りにきました。こどもおぢばがえりの3つの約束の一つ「ものを大切にします」をテーマに皆と共に過ごす中

で学ぶことを伝えていましたので、叱ると泣き出してしまいました。許してしまおうかとも思いましたが、本人にしっかりと伝えなければと思ひ直し、「生きる喜びを味わいます」「物を大切にします」「仲良くたすけ合います」の3つの約束をしっかりと伝えました。後でスタッフに聞くと、その子は、自分から「職員室（詰所の事務所）に謝りにいきたい」と言ってきたそうです。きつと怖かつたのを我慢して、素直に謝りたいと思ったのでしよう。

以前からこどもとの接し方に少し自信がなかったのですが、このことを通じ、自身に親の心を味わせて頂き、こどもの可愛らしさを学ばせて頂きました。いづれもこの御教えを知らない初参加のこどもが、親里で学んだことを素直に実行してくれ、尊きぢばの理を味合わせて頂いた出来事でした。

また、団を代表した「おやさとかた講話」の講師の役目では、真柱様のご視察を頂き、おぢばの理を頂戴した有難い瞬間も味わって頂きました。

した。

教祖のお言葉に

「この家へやって来る者に、喜ばさずには一人もかえされん。親のたあには、世界中の人間は皆子供である。」

（教祖傳第3章みちすがら）

また、

「分かん子供が分かんやない。親の教が届かんのや。親の教えが、隅々まで届いたなら、子供の成人が分かるであろ。」

（逸話篇196話）

とお教えいただけます。

真柱様はこの逸話について、「育てよう、丹精しようという相手が思うようについてきてくれないときには、相手をどうこう言うのではないのです。まずは自分の通り方、教え方、導き方に、届かない点はなかったらどうかと謙虚に見つめ直し、改めるべきところは素直に改めることを心がけてもらいたいのであります。そして何より、自分自身がこの道を通ることに自信と誇りを持つて頂きたいのであります。」（立教188年婦人会総会真柱様メッセージ）

とご教示下さっております。今回「こどもおぢばがえり」

を通し、親里ぢばで親神様のご守護を頂き、御存命の教祖の親心でこどもたちが、大きく成長できたこと。また、多くの育成会員の皆様に助けられ、詰所の皆さまのおかげで、こどもたちの笑顔を絶やすことなく無事に終えられたことを心より教祖に御礼申し上げます。

そして、1日延期したことで、すべてのおぢば行事に参加でき、また、こどもの笑顔に救われた経験から、先案じせず、自分の思いを謙虚に見つめ直し、素直に改めて、そして、執着を去り、教祖に凭れて通れば、間違いない道が開けてくるという、ひながたを学ばせて頂きました。

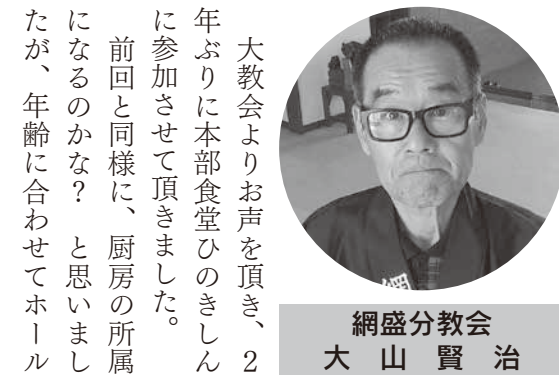
次に、少し早いですが、三年千日を振り返ってみますと、私共の教会では、心定めの一つに「毎月のおぢばがえり」を掲げました。

それは、表統領先生のお言葉に、「教会長がおぢばに心をつなぐことに、どういう意味合いがあるのか。ようばく、信者さんは、土地所の教会を通じておぢばの理を頂き、ご

次の日に説明したりと、その方の為と思いながら、自分自身の勉強にもなって有難いことでした。

その方は事情が深く、常々不足ばかりを話すので、Ⅱ期目の中間では私自身の心も折れる日々が続き、会長さんやクラスの理解ある方にも相談したり、悩むこともありましたが、教祖殿に足を運び、教祖と相談していく中に、心の向きが変わり、自分自身を取り戻していくことができました。その中、担任の先生からAさんが日々笑顔で通れているのは、新川さんの心遣いのおかげで、最初はどうなる事かと気に掛けていましたが有難いです。と声を掛けて頂き、私がさせてもらったことは間違いないかと、その日も教祖殿に足を運びお礼申し上げました。

クラスの仲間にも恵まれ、感心、感銘することや、伏せ込みの姿、悟り方、更には笑顔絶えず、見習うところが沢山あり、教祖からのプレゼントをすぐに頂けることや、素晴らしいご守護を目の当たりに見せて頂きました。おち



大教会よりお声を頂き、2年ぶりに本部食堂ひのきしんに参加させて頂きました。前回と同様に、厨房の所属になるのかな？ と思いましたが、年齢に合わせてホール

今年一月より「年祭実動報告」が始まりました。大教会全体の目標件数は10万件。「論達」に書かれている信仰実践のポイントを六つの項目に分けて、日々実行できたら用紙に記入しております。

最初は中々件数が増えませんでした。ところが、遠方に住むAさんが用紙を郵送して下さったり、Bさんは、記入用紙を写メで送って下さったり、又、少年会員C君は、毎日学校で「おはようございます。今日も一日陽気で過ごしましょう♪」と声がけしてく

もうすぐ教祖140年祭

10月26日

さあ！別席団参

11月30日

秋季大祭

斯道会

■モバイル帰参届
パソコンやスマホから簡単・便利に帰参届を送れるのをご存じですか？

再度、使用方法をご案内します。

①網走大教会ホームページを開く。
②メニューの帰参届をクリック
③パスワード…ksanを入力
④必要事項を入力
⑤送信

以上、これで完了です。

URL:tenrikyo-abashiri.xyz

もうすぐ教祖140年祭

10月26日

さあ！別席団参

11月30日

秋季大祭

斯道会

育成部 便り

▼少年会
「こどもおぢばがえり」

笑顔溢れる親里の夏

最高気温が35度を超える「猛暑日」が続く7月27日（8月3日の期間、今年も「少年会網走団」は、教会本部主催の立教188年『こどもおぢばがえり』に元気に参加した。

参加した子供たちは「しみ・ふせこみ行事」「おたのしみ行事」を通じて教えを学び、生きる喜びを味わった。

期間中、日本列島に津波警報が発令されるという節をお見せ頂き、大幅な予定変更となったが、大難を小難にご守護頂き、大きな事故、身上なく、おぢばで出会った仲間と共にたすけ合いの心を育む子供たちの笑顔が、親里で輝いていた。

参加者 少年会員25名
育成会員32名
合計57名
少年会団長 三幣敦志



トピックス

●修養科を修了して



5月より修養科が始まり、Ⅰ期7日目の朝勤めから寒気と節々の違和感に苛まれ、40度以上の高熱が5日間続き、病院でインフルエンザとコロナウイルスの検査をしました。が陰性で、解熱剤を飲んで何回か病院に行き、ようやく肺炎と診断されました。

寝込んだ5日間は生きた心地がせず、頭が非常に暑く、このまま死んでしまうのか、助かって頭が正常に戻らないのではと陰気な心になるばかりでした。

その中でも同じ教会の椎木さんが2ヶ月早く居てくれたお陰で、朝夕におさづけを取り次いで頂き、身の回りの事でも大変お世話になり、有難い限りでした。

自分自身は楽しく、修養科に行かせてもらっていたのに、何故肺炎の身上で親神様・教祖にストップをかけられたのかと思案しました。修養科が始まる前に、大教会長様より「志願したのは身上のご守護を頂きたいことは、もちろんですが、教会長夫人、委員部長としての通り方も考えながら1日々々を大切に頑張って下さい。」とお話を頂いたことに、私はおたすけをしていたことに気がきました。

もちろん修養科のクラスの方々には、おさづけの取り次ぎをさせて頂きましたが、入学初めより仲良くさせて頂いた方が、事情で来られていたので、常に話を聞かせてもらい、常に寄り添い、少しでも笑顔と一緒に3ヶ月を通らせて頂くと思いました。

その方はほとんど教理が分からず、なぜ？ これはどういう意味なのか、毎日問いてくる感じなので、私は教理が頭では分かっているのに、人に説明することが出来ず苦戦してしまい、日々詰所に戻っては教理勉強をしたり、分からない事は会長さんに聞いては

3月人のご守護

○をびや許し願（1名）

大教会8月の動き

○初席者（2名）

直轄 山崎 邦夫

女満別 福田 悠月

○中席者（8名）

女満別 福田 悠月

誠陽 伊藤 悠月

誠陽 伊藤 悠月

網新 伊藤 悠月

○おさづけの理拝戴者（1名）

直轄 瀬川 陽一

○修養科志願者者（12名）

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

直轄 瀬川 陽一

仕上げの年
諭達の実動十万件

〜年祭当日をうれしい心で迎えよう〜

実動件数
155,806件
(8月11日現在)

立教188年人のご守護心定め

初席者	ようぼく	修養科修者	教人
51名	23名	18名	6名
成 果 (8月末現在)			
16名	6名	4名	0名

31日 会場。縦の伝道日。八王子高校野球部詰所来所（25日まで）

29日 会長、千歳方面直轄信者まわり（17日まで）

27日 会長、おちばがえり。詰所23会。こども会。会長、本部神職奉仕つとめる。縦の伝道日

26日 本部月次祭遙拝。会長、結城和広役員、本部神職奉仕つとめる

24日 会長、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神職奉仕つとめる

23日 大教会一斉活動日。みそか会。直轄世話人会

22日 会長夫妻、教区祭参拝。

立教188(令和7)年人のご守護成果表（8月末現在）

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	
						当月	累計							当月	累計
直轄	3	11	2			9	78	誠央						1	16
美幌							3	常道							2
女満別	1	1				5	37	徳道		3				3	29
斜里町							1	満金		1					3
釧厚				1			11	網安		1					1
武士						2	8	オホーツク	2	2					11
常呂							31	網徳							2
旭網	1					1	12	栗沢		6	1	1		2	20
御料		2	1				5	徳元		1	1				11
東藻琴							0	網盛						1	3
陽光	1	1				1	16	網新	1	4		2			12
呼人						1	8	網葉							1
誠陽		1				1	4	網陽							8
網栄		1					4	誠網	3	6	1			8	41
實東	2	2				4	31	網次	1	4					9
東網	1						7	網昇							8
宗稚						1	13	勇走						1	10
計								所						53	148
初席	2	16	3	47	1	6	0	教人	0	0	95	604	婦参者		
当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果

8月 月次祭 8/12(火)

〈参拝者数 約100人〉					
神職講話	賛 者	指図方	扨者	祭主	祭 員
三幣 敦志	遠田三清水 藤中澤水原 浩春知幸繁 二繁雄	新川 正人	小松 篤志	三幣 正志	大教会 会長
胡三 味琴 弓線	小す太拍ち り 子ん笛 が ぼん 鼓ね鼓木	地 方	てをどり		祭 典
丸藤瀬川 山井とりの のり恵子	三幣小細大澤藤 松山木田山 敦篤善雅忠重 志志信人和善	青丸三幣 山山山 正一博徳志	藤三太結新大 山幣教会城教会 道輝夫和正 子子入人長	大教会 会長	座りづとめ
三藤結 幣山城美 代真和子	遠瀬永小吉桐 田川井針村谷 眞陽康敏光善 明一幸文正広	田清細 中水木 信善 繁喜信	青澤山岩遠在 山崎原藤原 聖裕篤 明道 子子子代繁広彌	前 半	割
眞桐栗 壁谷林沙 香也直 織加美	遠三新小眞 藤幣川澤松壁 浩敦正春篤正 二志美雄志教	藤清藤 山水井 重知広 善幸志	菅三瀬三安奥 原幣川幣田野 真有祐正光直 弓子子志広治	後 半	